

【大衆化の文化】

- ・総合雑誌『①』
…大正デモクラシーの思潮に社会問題や社会思想に関する論文を掲載
- ・大衆娯楽雑誌『②』

【社会運動】

◎社会主義運動

- ・ロシア革命 →支持・不支持それぞれから議論
→マルクス主義の思想と運動が日本でも広がる
- ↓
- ・[③]がひそかに結成

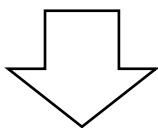
◎女性運動

- ・[④]…雑誌『⑤』を発刊
「良妻賢母」の考え方に対抗
- ↓
- ・[⑥]らと[⑦]を組織
→女性参政権と治安警察法の改正を要求

【普選法と治安維持法】

(1925年)

- ・[⑧]…財産による制限を廃止、25歳以上の男子に選挙権
- ・[⑨]…「国体」の変革や私有財産の否認を目的とする結社を取締り



普通選挙法によって成年男性を国民国家に主体的に参加させる



治安維持法によって国家に従わない者たちを排除

【経済と外交】

◎[⑩

]に調印

→海軍の強硬派などが政府を攻撃=[⑪

]問題

→反対をおさえ条約批准

◎1929年10月、アメリカでの株価暴落

↓

・世界恐慌へ発展 →日本も巻き込まれる (⑫)

◎張作霖爆殺事件 (1928年)

…関東軍が独断で実施

木下順二『微妙な変化、見逃さぬ力を』

(辻本弘明『「大正デモクラシー」の崩壊に関する研究序説』)

一つ、一つ、の措置はきわめて小さく、きわめてうまく説明され、“時折、遺憾”の意が表明されるのみで、政治の全過程を最初からのみこんでいる人意外 (以外) には、その“きわめて小さな措置”の意味はわからない。それは「ほんのちょっと」、悪くなっただけだ。だから次の機会を待つことになる。そう思う自分に馴れてしまっているうちに、事態は取り返しがつかなくなってしまう。

(中略)

その激烈さへ行く前の十数年を考えると、それはその激烈さを準備するための十数年のようなもので、そして、その十数年というものは、きのうに変わらぬ (ように見える) きょう、きょうに変わらぬ (ように見える) あしたの連続だったと思うのである。そのあいだには、一般の人にも何かの抵抗が可能だったはずだ。そして、今のわれわれは、あのころの人たちより、少しは「全課程の意味の洞察」ができる目をもっているはずである。

*木下順二… [1914～2006] 劇作家。